

今さら聞けない！？ ～浮腫～

さまざまな病態によって現れ、褥瘡の発生や悪化の原因ともなりうる浮腫。日常の看護でも、頻繁に出合う症候のひとつではないでしょうか。しかし、一見バラバラに見える浮腫の原因にも、それらを貫く共通のメカニズムがあります。目の前の浮腫が起こっている方の体の中で、どんなことが起こっているのか、可能なかぎり正確にイメージできるよう復習しましょう。

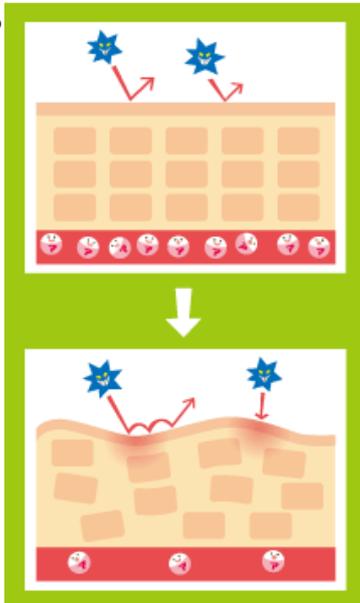
●なぜ浮腫は問題となるのか？

浮腫とは、いわゆる「むくみ」が見られる状態です。むくみとは、皮膚の内部に水分が異常に溜まった状態のことです。多くは下肢に見られますが、上肢や眼瞼など、さまざまな部位に生じます。浮腫の背景には重要臓器（肝・腎・心など）の障害が隠れていて、速やかな治療を要することがしばしばあるため、日々の介護においても十分な観察が必要なのです。また体位変換などの介護上の工夫によって浮腫を改善できることも少なくありません。浮腫は褥瘡の重要なリスクファクターですから、浮腫を改善することは褥瘡予防にもつながります。

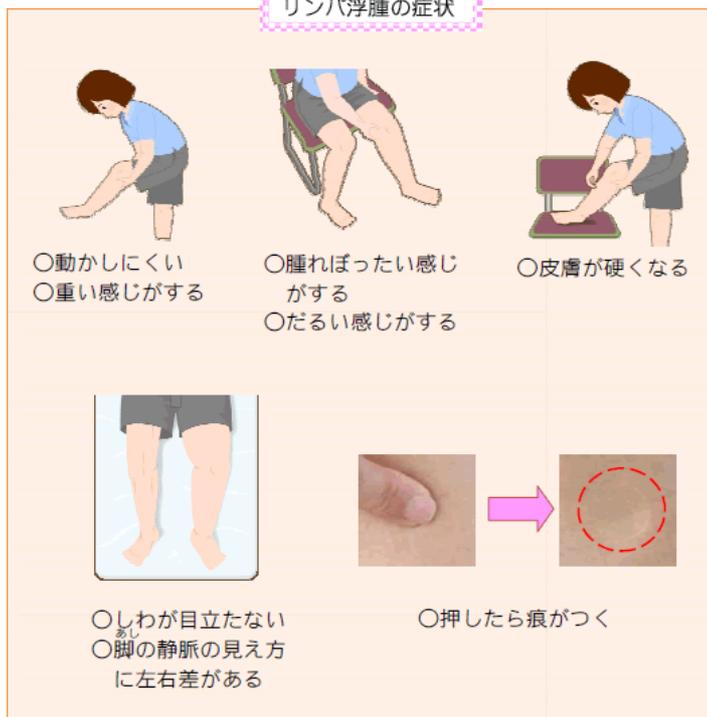
●浮腫の影響～褥瘡との関係～

むくみがあると皮膚が引き伸ばされて薄く弱くなるため、皮膚が傷つきやすくなります。また、皮膚の乾燥は角層内の水分が減少した状態です。乾燥した角層はひび割れの状態となり、外的刺激や感染への抵抗力が弱くなります。浮腫によって褥瘡が生じるのは、一言でいえば「皮膚細胞の機能が浮腫によって低下し、脆弱になるから」です。褥瘡の一般的なメカニズム同様、血液から細胞への酸素供給が低下し、虚血をもたらすことが一因です。

正常な皮膚では、外的刺激から守るバリア機能が働きます（右の図）が、右下の図のように、浮腫により皮膚の細胞機能が低下し脆弱になると、バリア機能も低下してしまいます。



リンパ浮腫の症状



●浮腫の治療

浮腫の治療は、原因によってさまざまです。栄養状態を改善すれば良くなる場合はそのための治療を、心臓・腎臓などがむくみの原因になっている場合はそれぞれの治療をし、原因となっている症状を改善するように治療していきます。

中でもリンパ管の流れが悪くてむくむことを「リンパ浮腫」といいます。手術や放射線治療、抗がん剤治療などによってリンパ管やリンパ節の働きに障害を生じると、リンパ液の流れが悪くなります。流れが悪い場所では、リンパ液が過剰に溜まり、皮下にしみ出してきてむくみが生じます。リンパ浮腫は根本的な解決が非常に難しいむくみです。浮腫がさほど気にならない時はそのまま、浮腫が気になる時はリンパマッサージというマッサージをして、きついストッキングなどで押さえることで浮腫を軽くする方法もとられます。